

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	大手前短期大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オオテマエタンキダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
	学部・研究科等名	ライフデザイン総合学科
	担当教職員名・役職	水原道子(就職委員長)
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	64
	受入企業等数	35
	受入企業等名	(株)アイコン、P&Gプレステージ合同会社、(株)三陽商会、(株)ノバレーゼ、(株)ドンク、(株)みかけ山手ロール、(株)神戸マツダ、浅井謙建築研究所(株)、(一財)ひょうご憩いの宿 いこいの村はりま、(株)三陽商会、保育園パステルの森、(株)そごう・西武 そごう神戸店、タカノホーム(株)、(株)シーマ、尼神運輸(株)、(株)つかしんタウンクリエイト(湯の華廊)、(株)チーゼル、社会福祉法人あかね、内外カーボンインキ(株)、SMBC日興証券(株)、コーセー化粧品販売(株)、(株)アーリア、兵庫ダイハツ販売(株)、(有)ほおずき、大阪ユニセフ協会、近田幼稚園、内外カーボンインキ(株)、(株)大林組、(株)新神戸ホールディング(ANAクラウンプラザホテル神戸)、マリエ・やしろ(株)、(有)玉造皆美(佳翠苑皆美)、ゴールドフラッグ(株)、サフィールリゾート(株)(シーサイドホテル舞子ビラ)、(株)ドルチェ、OKK(株)、イケガミグループ
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ、4.他県をまたぐ広域インターンシップ、5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ、6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ、7.中小企業でのインターンシップ、8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	短期大学生は入学1年後には就職活動が始まるため、休暇期間中のインターンシップは職業観の涵養をはじめ仕事の深い理解には欠かせないものになっている。高校卒業して間もない学生を実際の就業現場に派遣するためには、その意義を理解させ、目的意識やマナーの修得など事前準備に労力が必要だが、積極的に推進した結果、在学生の3分の1が参加するまでに拡大し、学生の意識向上に非常に役立っている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1～4単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	主に1年次生を対象に共通教育科目の選択科目として開講している。学生の主体的な選択に基づき、職業観の涵養をはじめ職業の理解を深めることにより、卒業後の進路選択に役立っている。実務教育を中心の専門教育を行うことから、就業体験を通じてその専門分野の選択やその後の職業人生のイメージ形成にも繋げている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている。2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている。3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている。4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている。3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等へ赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	選択必修科目の「キャリアデザイン」で、インターンシップの意義や効用について学修し、先輩学生の体験談を学生に伝えている。また、当該科目では、「インターンシップ参加の準備」(第1回目)、「マナー研修A」(第2回目)、「インターンシップの動機づけと発表」(第3回目)、「マナー研修B」(第4回目)を実施している。特に第3回目では、各グループで事前研修課題を基に考えをシェアしポストイットに記入して模造紙に張り、各グループ毎にプレゼンテーションを行っている。

	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	業務日誌や事後レポート課題をもとに各自で振り返りを行い、事前学習で行ったように模造紙にポストイットを貼り、グループ発表を行っている。また、プレゼン内容について参加者による投票を行い上位三グループに表彰している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	教職員がインターンシップ実施中のすべての就業場所を訪問し、学生との面談を行い受入先の責任者を含めた双方の状況確認を行っている。特に実習内容の不满に対しては、多様な観点から学生本人に再考を促す共に、必要な場合には担当者に改善要請を行い調整を図っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	秋学期にアセスメントを実施し、自己の強み、興味のある職業や価値観について把握し、入学時に行った個人面談での入学目的や卒業後の進路に関するヒアリング内容との変容を確認している。また、就職支援プログラムの参加状況やキャリア系科目での受講態度などについてインターンシップに参加していない学生との比較を行うと共に、内定者に対してインターンシップ参加による就活への効用についてアンケートを通じて自己評価を行ってもらっている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している。2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している。3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実施期間については連続する5日間以上を原則としているが、台風による警報の発令や体調不良による欠席などで厳守できない場合がある。その場合は、同じ研修先での期間の延長や他の研修先での期間を合算する方法も行っている。基本的には、1日8時間×5日間の40時間を就業体験時間として事前事後研修時間を合わせて45時間以上になるようにして1単位として認定している。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	単なる労働力の肩代わりではなく、仕事の理解を深め必要なスキルの習得が分かるよう教育的見地に立ったプログラムの確立を要請し、目的や就業内容を明確にして具体的なプログラムを提示できるよう協働を図っている。なお、受入先には自己紹介書の事前提出や必要な場合には学生との事前面談を行い、意欲や目的にミスマッチがないよう努めている。くわえて、毎日の実習日誌にはコメントを記入していただき学生のモチベーションの維持高揚に繋げ、終了時には期間を通じた総合的な評価をいただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://college.otemae.ac.jp/department/list.html
問い合わせ先	大学等名	大手前短期大学
	担当部署名	キャリアサポート室
	担当者役職名	キャリアサポート室長
	担当者氏名	坂手喜彦
	電話番号	072-770-6351
	メールアドレス	sakate@otemae.ac.jp